

派遣先所属 福島県商工労働部産業創出課ロボット産業推進室

氏 名 福田 弘樹 (ふくだ ひろき)

派遣期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

現在、福島県では、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域（福島県東部の太平洋沿岸地域を指す。）等の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指すための構想である「福島イノベーション・コースト構想」に基づき、廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産等の分野において、各種プロジェクトが進められているところです。

そのうち、ロボット分野においては、ロボット開発・実証拠点の整備が主要プロジェクトとして位置づけられており、その具体化として、南相馬市及び浪江町に建設が進められているのが、「福島ロボットテストフィールド（RTF）」です。

RTFは、物流、インフラ点検、大規模災害などに活用が期待される無人航空機、災害対応ロボット、水中探査ロボットといった陸・海・空のフィールドロボットを主な対象として、実際の使用環境を再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる、世界に類を見ない一大研究開発拠点です。

派遣先のロボット産業推進室では、この「福島ロボットテストフィールド（RTF）」の整備・運営のほか、ロボット産業集積に関する各種業務について、室長以下14名（うち、3名が応援職員（東京都、埼玉県及び長崎県））の体制で業務を行っています。



図1 福島イノベーション・コースト構想の概要図

(出展：ふくしま復興ステーション（福島県公式 復興情報ポータルサイト）、『福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想』、< <http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/list275-1006.html> > (2018.10.30))

私の担当業務の概要は、以下のとおりです。

(1) 福島ロボットテストフィールド（RTF）の発注事務

RTFは、大きく無人航空機エリア、インフラ点検・災害対応エリア、水中・水上ロボットエリア、開発基盤エリアに分かれ、各エリアにロボットの実際の使用環境を模擬した施設等が整備されることとなります（図2・3参照）。

これら各施設の整備につき、平成31年度の全面開所に向けて、ラインの土木技師の方々と歩調を合わせながら、工事等の発注事務に係る種々の事務手続を行っています。具体的には、一般的な工事の発注（条件付一般競争入札（総合評価方式））の場合、起工（工事の決定）→ 学識経験者の意見聴取等 → 入札公告 → 開札・落札者決定 → 契約手続という流れをとり、それぞれの手続に係る資料等の準備、調整等を担当しています。

RTFの整備に係る予算は、平成28年度から31年度で総額約150億（全額国庫）。本年度においては、県予算上約60億円が措置されています。

(2) 福島ロボットテストフィールド（RTF）の使用申請に係る事務

RTFは、前述のとおり平成31年度の全面開所に向け目下整備を進めているところ、整備の完了した施設から、順次供用を開始することとしています（図3参照）。

そして、本年7月20日、ドローンの安全な飛行を支える機能（ドローンの長距離通信の確保、上空の風向風速の観測、レーダーによる飛行物体の検知機能）を集約した施設である「通信塔」が供用開始されました。

これに伴う、施設等の使用希望者からの申請処理に係る事務が、私の担当業務です。使用申請の手続は、申請者からの使用希望の受付 → 使用方法・試験計画の調整 → 申請手続・使用料の納入通知 → 試験実施という流れを取ります。RTFは目下各施設が工事中であるため、施工業者との調整を行うとともに、関係自治体である南相馬市ほか関係団体との間に立ち、試験等が安全かつ円滑に実施できるよう各種調整を行っています。



図2 RTF完成予想図（鳥瞰図）

福島ロボットテストフィールド各施設の開所見込時期

エリア (主な施設数)	2018年度 (平成30年度)				2019年度 (平成31年度)			
	第1 四半期 (4月～6月)	第2 四半期 (7月～9月)	第3 四半期 (10月～12月)	第4 四半期 (1月～3月)	第1 四半期 (4月～6月)	第2 四半期 (7月～9月)	第3 四半期 (10月～12月)	第4 四半期 (1月～3月)
無人航空機 エリア (7施設)	② 広域飛行 区域 確保塔 7月20日 開所			④ ヘリポート	① 滑走路 (南相馬市)		④ 滑走路 外周防風 柵(南相馬市) ③ 通信ロボット 制御塔 ⑤ 連続観測 塔(南相馬市)	⑥ 風洞棟 ⑦ 滑走路・ 滑走路 制御塔棟 (南相馬市)
インフラ点検・ 災害対応 エリア (5施設)			③ 試験用 プラント ○着工済み		⑤ 直塔・ 土砂崩落 フィールド	② 試験用 トンネル	① 試験用 橋梁 ④ 市街地 フィールド	
水中・水上 ロボット エリア (2施設)							① 水深観測 フィールド ② 屋内水槽 試験棟	
開発基盤 エリア (1施設)						① 研究室	○着工済み	

※ 開所予定時期は、設計や工事の進捗状況に応じて、変更になる場合があります。Copyright © 2017 Fukushima Prefecture All Rights Reserved.

図3 RTF各施設の開所見込時期

2 被災地の復旧・復興の状況

私が所属する商工労働部では、被災地の状況に理解を深めることを目的として、例年、派遣職員を対象とした現地視察を実施していただいています。今年度は、富岡町内（語り部による講話）、J ヴィレッジ（サッカートレーニング施設）、櫛葉遠隔技術開発センター（廃炉研究のためのモックアップ試験施設）、アクアマリンふくしま（水族館）の視察が行われました。

櫛葉遠隔技術開発センターは、福島イノベーション・コースト構想に基づく廃炉分野の研究拠点であり、私の担当するRTF以外でも、福島の復興に向けた取組が着実に進んでいることを実感する反面、いまだ避難指示が続いている原発周辺の地域は、震災の傷跡をまざまざと残しつつ、時が止まっているかのように思えました（図4参照）。

震災から7年が経過し、現地を見る機会のない我々からすると、福島はもう元の姿に戻れたと感じることもあるかと思えます。しかしながら、「福島の復興はいまだ道半ば」であり、継続した支援が必要であると強く感じます。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県への派遣を機に一人暮らしを始め、悠々自適な生活となったことを受け、休日はほぼ、観光気分で県内を巡る生活を送っています。

感嘆すべきは観光名所の豊富さと食の美味しさ。春は三春町の滝桜から、冬はスノボや雪景色（まだ経験していませんが）。江戸時代の宿場町の面影を残す会津地方の大内宿。そして、県内各地に点在する温泉（飯坂温泉、土湯温泉、高湯温泉 etc.）。福島市内の飲食店もどれほど回ったことか…。

福島県というと“東北”というイメージが強く、どこか遠いところという印象しか持っていなかった私ですが、埼玉県からは新幹線で約1時間（大宮駅～福島駅）。とても身近な存在です。

福島の復興のお手伝いをする傍ら、福島県の素晴らしい魅力に気づく派遣生活となっています。



図4 富岡町内（帰還困難区域は、通行証がないと通過することもできない。）



図5 三春滝桜